

広域観光・文化振興局の取組状況について

■「関西観光・文化振興計画」に沿った施策の展開

平成24年3月、関西から日本の元気を取り戻し観光から日本の元気を取り戻すという高い目標を掲げて「関西観光・文化振興計画」を策定。この計画は、概ね10年間を見据え、当面の事業推進計画は平成24年度からの3年間とし、関西広域連合として府県や住民など幅広い主体のまとめ役を担いながら、関西が一体となって戦略的に取り組む方向を示しています。

計画に掲げた将来目標等

- ・日本の現状 来日外国人客数は世界第30位。魅力の発信と活用が不十分
- ・将来目標 関西の将来像を「アジアの文化観光首都」にする
- ・数値目標 関西への訪問外国人客数について、年間約1,000万人を目指す

○目標達成のための5つの戦略

計画では、これらの目標達成に向けて次の5つの戦略を掲げています。

(1) 「KANSAI」を世界に売り込む

広域観光ルートの提案や「KANSAI国際観光YEAR」の展開 など

(2) 新しいインバウンド市場への対応

ニューツーリズムの魅力強化、MICEの取組強化 など

(3) マーケティング手法による誘客

ビジネスネットワーク構築、KANSAI WEB戦略 など

(4) 文化振興等との連携

文化芸術活動等の交流と関西文化の魅力発信、関西文化に親しむ機会の拡充 など

(5) 安心して楽しめるインフラ整備の充実

関西国際空港の魅力向上、おもてなし・利便性の向上 など

○平成24年度予算

戦略の具体化を図るため、当初予算で2,127万2千円を計上。さらに8月補正予算において、KANSAI国際観光YEARの実施など600万円を追加計上。

平成24年度分野予算 計2,727万2千円（8月補正後）

- ・KANSAIブランドの構築 (22,172千円) KANSAI国際観光YEARの実施 海外プロモーションの実施 など
- ・基盤整備の推進(4,690千円) 関西全域の観光統計調査、通訳案内士 など

■平成 24 年度の取組状況

OKANSAI ブランドの構築

世界の観光マーケットにおいては、関西(KANSAI)の知名度はまだまだ低い現状にありますが、外国人観光客誘客に向けて、将来的にはブランドとしての優位性を確保する必要があります。このため、個々のイメージではなく、関西を一つのブランドとして積極的に海外に向けて発信する取り組みを展開しています。

(1)「KANSAI 国際観光 YEAR 2013」

関西は優れた歴史・伝統・文化に恵まれています。中でも食文化は、多様な自然・文化と相まって、各地において豊かで伝統ある食文化が発展・継承されています。KANSAI 国際観光 YEAR 2013 は、世界に誇る「関西の食文化」をテーマに、関西広域連合や府県市、経済団体など関西が一体となって年間を通じて情報発信を行うものです。

今年度は、スタートを前に中国・韓国でのプロモーションで現地メディアや旅行社へのPRを実施するとともに、昨年末には、玄関口となる関西国際空港の国際線到着ロビーにおいて、外国からの観光客に対し、関西の食の映像でアピールするしくみをつくりました。また、KANSAI 国際観光 YEAR ホームページでは、食文化を体験できる場として、食関連イベントを多言語で紹介しています。



関西国際空港では映像で、自然の恵みや伝統に支えられた食文化をアピール

イベント情報 event information

ホームページでは、1~3月で22イベント(2012年末現在)、1年間で100超のイベント情報を提供(英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語の4言語で提供)

今後も、関係団体と連携し、海外プロモーションやファムトリップ、さまざまな媒体で「関西の食文化」と食関係イベントの情報を内外に発信していきます。

25年度の取組方向案

これらの情報発信をさらに拡充するとともに、コア事業として4年に一度大阪で開催される食博覧会において、関西の食文化を紹介する出展を検討しています。

(2) 海外プロモーションの実施

「関西」をさらに魅力ある観光圏としてアピールするため、関係団体との連携のもと広域連合長等によるトップセールスを実施。歴史や文化、自然景観など関西の持つ

多様な魅力を紹介し、KANSAIブランドを発信します。

・韓国プロモーション

8月、山田委員の訪韓の機会を捉え、ソウルで旅行社やブロッガーなどを招いてセミナーを開催。「KANSAI国際観光YEAR2013」を前に、食文化を中心とした関西観光の魅力を積極的に紹介し、関西への誘客を促進しました。



韓国文化体育観光部と意見交換

セミナーでの食文化アピール



・中国プロモーション

9月11日(火)から14日(金)にかけて、関西経済界等との連携のもと井戸連合長を団長に総勢50名の訪問団が、北京、杭州及び上海の3都市においてプロモーションを展開。日中関係が厳しい中での訪中となりましたが、セミナー等には多くの旅行社やメディアが参加し、関西観光PRという目的を達成することができました。

北京・上海においては、2013年を前に、もてなしの心あふれる関西のすばらしい食文化をアピールするとともに、新たな関西の観光資源を紹介。また経済成長著しい杭州市においては、現地企業関係者などを招いてインセンティブツアー等関西MICEをアピールしました。



井戸連合長あいさつ
(北京・観光セミナー)

多くの旅行社が参加
(上海・観光セミナー)



浙江省幹部を招いての交流レセプション(杭州)



25年度の取組方向案

KANSAI 国際観光 YEAR の一環として香港プロモーションを行うほか、東南アジアや中国など多面的にプロモーションを実施し、KANSAI ブランドを積極的に発信いたします。とりわけ、経済伸張やビザの拡充により市場の拡大が期待される東南アジアは、関西として後れをとることのないよう2月にプロモーションを行います。

(3) 名誉観光大使「KANSAI 観光大使」の任命

関西と海外との架け橋として活動され、関西へのインバウンドに尽力された方を称え、さらなる活躍を期待して「KANSAI 観光大使」に任命し、海外におけるネットワークの強化を図っています。

トッププロモーションの機会に、韓国において3名、中国で4名の方を大使に任命。これらの方々には、KANSAI 国際観光 YEAR の取り組みなどの情報を提供していきます。

韓国 イ・ヨンスク(李容淑)氏
キム・ギョンウ氏
ムン・チョルジン氏

中国 テイ・ホルイ(鄭保壘)氏
サイ・マンテツ(崔万哲)氏
シュウ・カシュ(周華殊)氏
谷口弘記氏



韓国での任命式(イ・ヨンスク氏)



北京での任命式記念撮影

(4) IT を活用した広域観光ルートのPR

関西を来訪した外国人観光客に対して、わかりやすく広域観光ルートを紹介・案内するとともに、主要な観光関連施設への行き先案内を促進します。世界的にスマートフォンが普及しており、主要施設をはじめ多くの観光資源を案内するため、多言語によるスマートフォン対応のホームページを構築します。

(5) 山陰海岸ジオパーク活動の推進

韓国、中国プロモーションにおいて多様な関西の観光資源を紹介する中で、広域観光連携のモデル的な取り組みである山陰海岸ジオパークに関するトップセールスを実施。観光ルートとしての活用など山陰海岸ジオパーク関係事業を推進しています。

25年度の実行方向案

プロモーションでのトップセールスとともに、関西にある優れた地質景観スポットを「地質の道」として提案、PRを実施します。

○文化振興の取り組み

(1) 関西「文化の道」事業／人形浄瑠璃のパンフレット制作

関西で発祥し全国に広がった関西共通の文化である「人形浄瑠璃」について、文化庁補助金を活用して日本語、外国語（英語、中国語（簡体字、繁体字）韓国語）のパンフレットを制作、国内外へ情報発信していきます。

(2) 「関西文化の日」の取り組み

2府8県の文化施設等の協力を得て、11月の特定日の常設展等を無料とする「関西文化の日」について、10回目を迎えた平成24年度から関西広域連合と関西元気文化圏推進協議会の主催となりました。491施設（過去最高）が参加し、38万人の方々に、関西が誇る長い歴史に培われた豊かな文化・芸術に気軽に接する機会を提供しました。



(3) 「古典の日に関する法律」の制定

国に対して法制化を提案してきた「古典の日に関する法律」が、平成24年9月5日に公布・施行され、古典に学び、古典に親しむ日として「11月1日は古典の日」と定められました。今後積極的な取り組みを進めます。



25年度の実行方向案

文化と観光が一体となってKANSAIブランドを広めていくため、関西の文化芸術の継承・発展・創造に取り組むとともに、関西文化に親しむ機会の拡充により、関西の魅力を発信。人形浄瑠璃をテーマにした「文化の道」事業の推進や、「古典の日」の普及啓発などに取り組んでいきます。

○その他の取り組み

(1) 基盤整備の推進

・人材の育成（通訳案内士）

各府県ごとに行っていた通訳案内士(全国)の登録事務を4月1日から広域連合で一元的に管理。事務の効率化を図るとともに、住所地にかかわらず圏域内府県庁での登録が可能になりました。さらに、関西広域連合が進める周遊型観光やKANSAI国際観光YEARに関する情報提供等を行い、関西を訪れる外国人観光旅客の利便性向上を目指して、関西の自然や歴史、文化に通じた人材の育成を図っていきます。

・関西全域を対象とする観光統計調査

関西としての効果的な誘客の取り組みを進めるため、関西圏域を対象に効率的・効果的な調査手法によって、外国人観光客の観光動向を把握します。

25年度の間組方向案

引き続き通訳案内士登録事務の一元管理を行い、通訳案内士に対して周遊型観光に対応した情報提供等を実施するとともに、関西を訪問する外国人観光客の動向把握を進めます。地域限定通訳案内士については、沖縄県を除く先導道県が国の制度改正の動きや資格取得者の活用の場が見込めないこと等から休止をしており、関西広域連合としても見送りをする方向としています。